

楽々浦地区が目指す姿

- ・地区の方々の頭の中にあつた自然環境など忘れられない記憶を取り戻す。
→半農半漁、遊覧船、昔ながらの船小屋など
- ・楽々浦を訪れた人がゆっくりできる場所をうみだす。
- ・今と昔の楽々浦の調和、人と生き物の共存・共栄。
- ・豊岡市の掲げる生物多様性地域戦略をベースに、楽々浦湾の生態系保全や地域と環境との社会的つながりの再構築。



クライテリア 考慮すべき3要素の関連性

経済的要因	漂着ごみの処理費用・人員の不足、大量の流木による船小屋の損壊。
社会的要因	急速な少子高齢化と人口減少が進み、12歳以下の人口は現在0人、高齢化率も45%であり、近いうちに限界集落となる可能性が極めて高い。
環境的要因	漂着ごみ問題は、景観の悪化、動物の誤飲・誤食などで生態系への悪影響を及ぼし、コウノトリの野生復帰において潜在的脅威となっている。

コウノトリ‘も’住めるまちへ

河川環境から見る里山の再生

～海とまちと山のつながりの再生を目指して～



漂着ごみとは

海洋を漂流しているごみ及び海岸に漂着したごみの総称のことで、「海ごみ」とも呼ばれています。

また、日本の海岸に漂着するごみの約7～8割は河川を通じて内陸から出たものです。一度海洋に出たごみを回収するのは困難であり、そのため内陸から出るごみの発生抑制が不可欠です。



コウノトリ

国の特別天然記念物に指定されており、世界でも生息数は2000～3000羽と推定され絶滅が危惧されている希少な鳥です。ロシアと中国の極東地域を主な繁殖地としており、日本には越冬するために舞い降ります。

豊岡市では半世紀以上にわたって保護活動が進められており、その成果として現在では172羽が生息しています。



ラムサール条約

特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地及びそこで生息・生育する動植物の保全を促し、湿地の適正な利用を進めることを目的とした条約のことです。

日本において河川名で登録されたのは円山川が初めてであり、今後も生態系の保護活動が期待されています。

漂着ごみによる、景観の悪化、水質汚染、動物の誤飲・誤食などで生態系への悪影響を及ぼしており、コウノトリの野生復帰においても潜在的脅威となっています。



ごみとコウノトリを含む生態系を切り離して考えることはできません。



楽々浦地区の現状



ささうら
楽々浦地区は、城崎温泉の温泉街から円山川を挟んだ対岸に位置しています。人口は46人、65歳以上の人口は21人、世帯数15世帯の小さな集落であり、12歳以下の人口は0と、今後、限界集落となる可能性が極めて高い集落です。

楽々浦地区の方々は、昔から半農半漁の生活によって、生活の糧を得ていました。また、獲れた魚介類を船で城崎温泉街の旅館などに運ぶほど多く漁獲されてもいましたが、昭和53年頃から徐々に河川環境が悪化し、漁獲量も昔に比べ激減しています。

漂着ごみ・流木による被害

楽々浦湾周辺の円山川は、河口部ということもあり、普段の川の流れは穏やかであまりごみは出ませんが、大雨のたびに大量のプラスチックごみや流木が流れ着き、深刻な環境問題が発生しています。

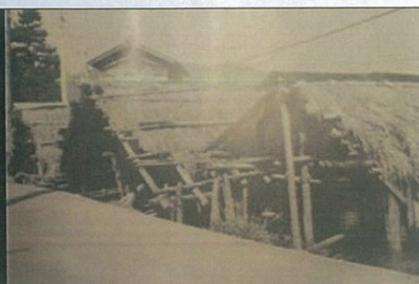
また、プラスチック類やペットボトル、空き缶、飲料びんなどの生活ごみに加えて上流部の山林の土砂崩れなどで発生したと考えられる流木も流れてきます。流木は湾内に流れ込むだけでなく、船小屋までも損壊させることもあり、その修理費用として約9万円かかったこともあり、地区の方々は多大な被害を受けています。流木は山の荒廃が原因と考えられ、森林整備も急務であります。



昔の楽々浦の船小屋

かやぶ
茅葺き船小屋

よし
楽々浦地区では約50年前まで、葦を屋根の材料とした船小屋がありました。この葦は楽々浦湾周辺に自生しており、地区の方は子供の頃からこれをつかって船小屋を建てるを手伝っていたと語って下さいました。

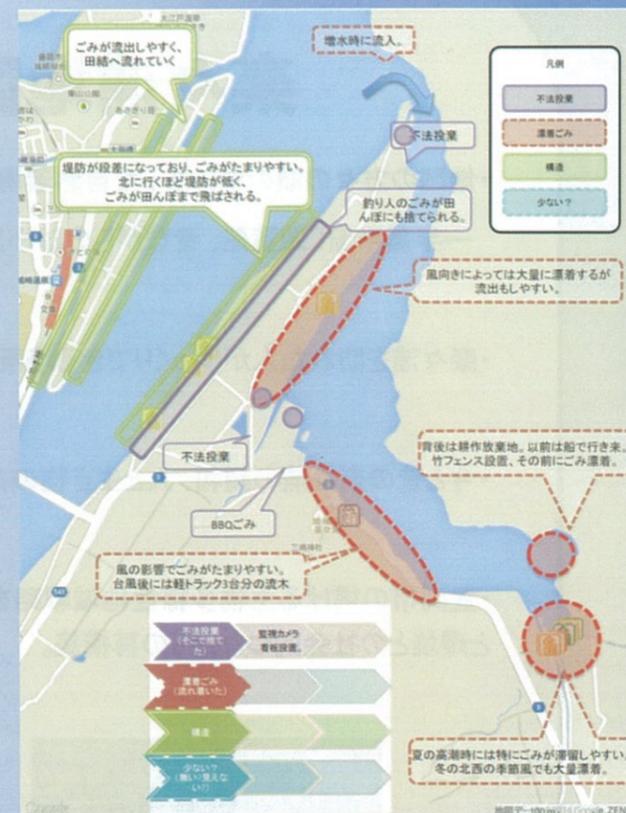


楽々浦湾周辺でのオンラインゴミマップを用いた調査



オンラインゴミマップとはGPS機能付きデジタルカメラで漂着ごみの状態を記録するとともに、ゴミの量を目視により推定しランクづけするものです。そして、そこで得られたゴミの写真、GPSによる位置情報、目視によるゴミの量のランクなどのデータをオンライン上の地図に蓄積することで、「どこに」、「どんな」、「どれくらい」のごみがあるかを視覚的に知ってもらい、その情報を流域全体で把握することで意識的な改善を図ります。

右のマップは、楽々浦地区の方々の協力のもと、作成したオンラインゴミマップです。生活ごみ以外に不法投棄されたと思われるごみもあることが分かりました。



2014年 3月作成 楽々浦湾周辺でのオンラインゴミマップ

楽々浦の魅力って??

一願成就 鼻かけ地蔵祭り

願いが一つ叶う

鼻かけ地蔵祭りは今年で38回目をむかえ、毎年300~400人ほどの方々が楽々浦地区を訪れ、当日は護摩供養などが行われます。鼻かけ地蔵は一つだけ願い事を叶えてくれると伝わっており、古くから地区では祭礼を執り行ってきましたが、1986年に祠が改築されたのを機に「鼻かけ地蔵尊祭」として盛大に行われるようになりました。同じ頃、鼻かけ地蔵は、当時の人気テレビ番組であった「まんが日本昔ばなし」にも取り上げられたこともあり、今なお多くの参拝者でにぎわっています。

私たちゼミ生は今年のお祭りで、ヒアリングや調査を兼ねてお手伝いをさせていただけることになり、お祭りを通じて楽々浦の魅力を広めてほしいからと動画の撮影、写真の許可までいただきました。また、今回のお祭りで、護摩、お賽銭、お供えを合わせて330,676円の収入があったことが分かりました。

